

# かしわら見張り番

# 1

no.6



代表 はまうら佳子

〒582-0026  
柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号  
電話 072-977-5502  
FAX 072-977-8782

## 東山地区の産廃不法投棄

### 浜浦議員の議会公質問で発覚

東山地区にある無認可の産廃処分場で、二十一年間にわたって注射針やタイヤなどの産業廃棄物を不法投棄していた疑惑が深まっている。昨年十二月の議会で浜浦議員がこの問題を市に質したが、市側は答えはぐらかすばかり。市民の健康に係わる重大問題だけに、市は早急に対策を打つ必要がある。



建設残土再処理施設	
所在地	柏原・信貴リサイクル事業所
所在地	柏原市大字寺尾3079番
内容	リサイクル事業
建設	建設
起工年月日	平成10年9月20日
竣工年月日	平成10年10月6日
業者住所	八尾市東山地区
業者氏名	信貴リサイクル株式会社

この為に緑ある自然を守ろう！ 我々の力で！  
建設残土は貴重な資源です。

K社が「建設残土処理施設」として使用する土地に不法に投棄された産業廃棄物。同社は産廃処理の認可を受けていないが同社の社名入りの重機が埋め立て作業をしている写真もある。タイヤのほか薬品類や注射針など、住民に健康被害を及ぼす可能性のあるものも多く含まれている。

豊かな自然が残る市民の憩いの場所とも言える東山地区に、環境汚染物質を含む可能性のある産廃が長年にわたって埋め立てられていた。これは、疑惑の業者の元従業員が発覚でわかったもので、明らかな証拠写真も存在するため事実と判断せざるをえない。

八尾市のK社が所有する約三〇〇坪のこの土地は、産廃処分場として認可を受けていない。名目上は建設現場から出る残土の埋め立てである。産廃を埋め立てることができる業者は府下で四社だけで、同社は産廃の「収集運搬」を主な業務とする業者であって、産廃の埋め

これが、K社による不法投棄の証拠写真だ！

立てや中間処理の許可は得ていない。昨年、同社を解雇された

元従業員の証言によれば、約二十一年間にわたって産廃などを運び込み埋め立てしていた。具体的には、注射針、タイヤ、薬品類、ガラス・ビン、廃プラなどの他、廃車になった自動車、選挙後のゴミなども持ち込まれていたという。無許可で産廃廃棄物を埋め立てているとしたら、明らかに不法投棄である。元従業員はさらに、アスベス

# 健康被害防止措置が急務

トも含まれていたと証言している。事実であれば恐ろしいことだ。環境汚染物質が地下に浸透して大和川に流れの可能性もあるからだ。また、大量の産廃タイヤを燃やしていたこともあったように、そうであればダイオキシンも発生していた可能性が高い。実際、この元従業員は現在、全身に湿疹ができて治療中だが、羽曳野のアレルギー診療センターで精密検査したところ、毛根にカビが繁殖していることが判明。担当の医師の話では、本人の免疫力が低下しているためだろうという。はっきりとした因果関係は、今のところ不明だが、同社での労働条件を考えれば環境汚染有害物質や環境ホルモンの影響も疑われる。

## 各地でくちばし奇形した鳥が増加

環境省の調査によれば、全国で不法投棄される産廃の量は平成19年度で年間102万トン、件数は382件。この事態の改善のため、自治体は排出事業者に対し、不法投棄の廃棄物の除去や汚染土壌を浄化する費用を請求できるようになった。従わない場合には、懲役5年以下か罰金1億円以下の罰則を科すこともできる。万一、不法投棄による産業廃棄物から有害物質が発生した場合、住民への重大な健康被害が及ぶ。環境汚染への警告として、最近話題になっているのが野鳥のくちばし奇形だ。12月4日放送のテレビ朝日「スーパー・モーニング」では、くちばしが入り交差したり、そり曲がったり割れたりしている鳥を紹介。環境庁・鳥類標識事業協力調査員の林吉彦氏は、「環境ホルモンの影響ではないか」と話した。自然の動植物の異変は人間への警告だ。



くちばしが奇形したカワウ  
四国国立共同研究機構・井口泰康教授による愛知県民権センター「環境ホルモンと生活環境」より

## 浜浦議員が市を追求 岡本市長「証拠ない」と無視

十二月の市議会でこの問題を取り上げた浜浦佳子議員に対して、岡本市長は「あなたは現場を見てきたのか」「具体的な証拠をなければ答えようがない」と、真正面から答えずはぐらかすばかり。浜浦議員は、「私の本意は市長を攻撃することではありません。市民の健康と安全に関わる重大問題なので、市には早急に対策を取ってほしいのです」と訴えている。

現在埋め立てられた後のため、この土地は表面上はきれいになっている。市長が証拠がないと言っていること、本紙に掲載している通り証拠写真が存在しているのだ。それにもかかわらず、市側が問題をぐらかすのは、何か都合の悪い事実があるのだろうか。元従業員の証言では、一昨年秋まで不法投棄は続けられていたという。柏原市

環境問題は一つ対応を誤ると、凶器となって人間を襲ってゆく。環境汚染が原因とみられるくちばし奇形を持つ野鳥が増えているという。先日、テレビのワイドショーでその痛ましい姿を放映していたが、柏原市民の私たちの周囲にも環境汚染が静かに進んでいる可能性があるのだ。未来の子供たちを守るためにも、市は早急に手を打つのが当然ではないか。

の対応が鈍かった原因として、業者と市側の癒着を指摘する声もある。しかし、ここではそれは置いておく。急がなければならないのは問題の土地の土壌検査、水質検査である。周辺の住民が健康異常を来してからでは遅いのだ。